

2018年度教育力向上研修・講座概要

第4回	分野：「高等教育論（B）」（選択） テーマ：「授業・学修活動の高度化にむけて」（講義）	開講日時	
		10月1日（月） 18：15～19：45 ソラティオスクエア TNec041 教室	
講師	安岡 高志（客員教授）		
到達目標	①教育理念にしたがって、授業計画をたて成果を測定することができる（技能） ②成果を発表用にまとめることができる（技能） ③上記①②を通して授業を研究対象とすることができる（態度・志向）		
事前学習 課題	教育理念をもって教育に取り組んでいるか。教育理念がある場合、その教育理念は何かを考えて来ててください。		
概要			分
phase 1	●教育理念と達成目標 ・教育理念とはどのようなものかの事例を示し、教育理念にしたがった科目に係る目標と科目には直接関係しない目標を例示します。		30
phase 2	●目標達成の戦略と成果の測定 ・重点を置く目標を達成する戦略とその成果を測定する方法を個人で考えていただいた後、グループでディスカッションをしていただきます。 ・結果的に授業に課題を設定して取り組むようになることを期待します。		45
phase 3	●振り返り ・グループでのディスカッションの内容を紹介していただき、気づきを共有します。 ・研修を通して、戦略・データの取り方など専門の研究活動と同じであることを実感していただくことを期待します。		15
事後学習 課題	・振り返りシートの作成と事後アンケートの記入 ・今期の授業で目標を達成する戦略と達成を測定する方法の計画を提出してください。（提出は任意とします。提出された方には講師よりコメントを戻します。） ・成果を何に発表するか楽しく考えてみてください。		
参考文献	・久保延恵 他、「評判のよい授業展開の10ヶ条 -Teaching Award 受賞者のインタビューから-」、東海大学紀要教育研究所 20号 p.91-103 ・安岡高志、「問題発見・解決能力を養う授業の試み」、立命館高等教育研究、No.10 P.203-216		

2018 年度教育力向上研修・講座

第 5 回	分野：「高等教育論 (B)」(選択) テーマ：「ミクロな IR (データによる授業分析)」	開講日時	
		10 月 15 日 (月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア TNec041 教室	
講師	中鉢 直宏 (講師)		
到達目標	① 授業で収集できるデータについて理解する (知識理解) ② データの取得について理解する (知識理解) ③ データを分析するツールについて理解する (知識理解)		
事前学習 課題	* 講座前にお知らせします。		
概要			分
phase 1	●授業改善のためのデータ取得 ①授業でデータを取得する目的 (10 分) ②授業で取得できるデータの種類 (5 分)		15
phase 2	●データの取得方法や保存方法 ①データの収集 (10 分) ②データ分析手法の紹介 (10 分) ③分析ツールの紹介 (BI ツール、テキストマイニングツール) (10 分)		30
phase 3	●データ分析のワークショップ ①データ分析のワークショップ (10 分) ②ワークショップの総括 (10 分)		35
事後学習 課題	・振り返りシートの作成と事後アンケートの記入		10
参考文献	1. KH coder ( <a href="http://khc.sourceforge.net/">http://khc.sourceforge.net/</a> ) 2. 『社会調査のための計量テキスト分析』 樋口耕一著、ナカニシヤ出版 3. Tableau ( <a href="https://www.tableau.com/ja-jp">https://www.tableau.com/ja-jp</a> )		

2018年度教育力向上研修・講座概要

第6回	分野：「学習デザイン論」(選択) テーマ：「授業設計の全体像と教材チェック (理論編)」	開講日時
		11月19日(月) 16:30~18:00 ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	宮原 俊之(准教授)ほか、教育方法研究室 室員	
到達目標	<p>①「インストラクショナルデザイン」とは何かを説明できる(知識)</p> <p>②インストラクショナルデザインの視点(講座で取り扱った内容)から、自らの授業設計の特徴についてチェックできる(知識、技能)</p> <p>③新しい教育方法へ興味を持つ(態度、関心)</p> <p>第6回と第7回は連続の構成となっていますが、それぞれの回のみ受講も可能です。 また、両講座は、教育方法研究支援室を中心に行います。</p>	
事前学習課題	①現在授業で使用している教材を持参して下さい(1回~2回分程度)。	
概要		分
phase 1	<p>●<b>授業設計の全体像を知る</b>(共有化フェーズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インストラクショナルデザインを通して、授業設計の全体像について概説します。</li> <li>・特に、授業の組み立て(ガニエの9教授事象)、動機づけ(ARCSモデル)、授業・教材の評価(形成的評価)について詳しく取り上げます。</li> </ul>	40
phase 2	<p>●<b>授業設計における特徴振り返りワーク</b>(表出化・連結化フェーズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、持参した教材の1回分を選び、<b>phase 1</b>での学びを利用し、自分の授業設計の特徴をまとめます。15分</li> <li>・グループ内で各自の授業設計における特徴について説明し、意見交換を行います。20分</li> </ul>	35
phase 3	<p>●<b>全体での共有</b>(表出化・連結化フェーズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内での意見交換における気づきを全体で共有します。10分</li> <li>・質疑応答 5分</li> </ul>	15
事後学習課題(*帝京大学教員のみ)	<p>1. 研修の振り返りシートの作成</p> <p>2. 講座での学びを活かし教材の見直しを行った場合は、その内容(チェックした点、改訂した点など)をまとめてください(研修総括レポートに記述するのがよいでしょう)</p>	
参考文献	<p>1. R. Mガニエ・W. Wウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー著、鈴木克明・岩崎信監訳『インストラクショナルデザインの原理』、北大路書房(2007)</p> <p>2. C.M.ライゲルース、A.A.カー=シエルマン著・編集、鈴木克明、林雄介監修・編集『インストラクショナルデザインの理論とモデル: 共通知識基盤の構築に向けて』、北大路書房(2016)</p> <p>3. J. M. ケラー著、鈴木克明監訳『学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房(2010)</p>	

2018年度教育力向上研修・講座概要

第7回	分野：「学習デザイン論」(選択) テーマ：「授業設計の全体像と教材チェック (演習編)」	開講日時
		11月19日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	宮原 俊之(准教授)ほか、教育方法研究室 室員	
到達目標	<p>①「インストラクショナルデザイン」とは何かを説明できる(知識)</p> <p>②インストラクショナルデザインの視点(講座で取り扱った内容)から教材をチェックできる(知識、技能)</p> <p>③新しい教育方法へ興味を持つ(態度、関心)</p> <p>第6回と第7回は連続の構成となっていますが、それぞれの回のみ受講も可能です。 また、両講座は、教育方法研究支援室を中心に行います。</p>	
事前学習課題	<p>①現在授業で使用している教材(内容を見直したいと思っているものがあればその教材)を持参して下さい(1回~2回分程度)。</p> <p>②内容を見直したい教材の場合は、どうして見直したいのかをまとめておきましょう。</p>	
概要		分
phase 1	<p>●<b>授業設計の全体像を確認</b>(共有化フェーズ)</p> <p>・第6回で取り上げた内容(インストラクショナルデザインを通しての授業設計の全体像、授業の組み立て[ガニエの9教授事象]、動機づけ[ARCSモデル]、授業・教材の評価[形成的評価]など)について確認します。</p>	10
phase 2	<p>●<b>教材チェックのワーク</b>(表出化・連結化フェーズ)</p> <p>・ワークの方法について説明します。5分</p> <p>・各自、持参した教材の1回分を選び、<b>phase 1</b>での学びを利用しチェックします。20分</p> <p>・グループ内で各自のチェック内容について説明し、意見交換を行います。40分</p>	65
phase 3	<p>●<b>全体での共有</b>(表出化・連結化フェーズ)</p> <p>・グループ内での意見交換における気づきを全体で共有します。10分</p> <p>・質疑応答 5分</p>	15
事後学習課題(*帝京大学教員のみ)	<p>1. 研修の振り返りシートの作成</p> <p>2. 講座での学びを活かし教材の見直し行った場合は、その内容(チェックした点、改訂した点など)をまとめてください(研修総括レポートに記述するのがよいでしょう)</p>	
参考文献	<p>1. R. Mガニエ・W. Wウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー著、鈴木克明・岩崎信監訳『インストラクショナルデザインの原理』、北大路書房(2007)</p> <p>2. C.M.ライゲルース、A.A.カー=シエルマン著・編集、鈴木克明、林雄介監修・編集『インストラクショナルデザインの理論とモデル：共通知識基盤の構築に向けて』、北大路書房(2016)</p> <p>3. J. M. ケラー著、鈴木克明監訳『学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房(2010)</p>	

2018年度教育力向上研修・講座概要

第8回	分野：「教授・学習論 (B)」(選択) テーマ：「ルーブリックの作成と活用」	開講日時
		12月17日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	新原 将義 (助教)	
到達目標	①ルーブリック活用の利点について説明できる (知識理解) ②自らの授業について、活動内容に即したルーブリックを作成できる (技能)	
事前学習 課題	*講座前にお知らせします。	
概要		分
phase 1	●ルーブリックとはなにか ①ルーブリックの概要と仕組み (5分) ②ルーブリックの必要性 (10分)	15
phase 2	●ルーブリックの活用方法と利点 ①ルーブリックをどう使うか (15分) ②様々なルーブリック (10分)	25
phase 3	●ルーブリックの作成 ①観点と尺度の設定 (10分) ②評価基準の設定 (10分) ③グループでの意見交換, 改善 (25分)	45
事後学習 課題	・事後アンケートの記入 ・振り返りシートの作成	5
参考文献	1. ダネル・スティーブンス & アントニア・レビ著, 佐藤浩章監訳, 井上敏憲・俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』, 玉川大学出版部 (2014) 2. スー・F・ヤング & ロバート・J・ウィルソン著, 土持ゲーリー法一監訳, 小野恵子訳『「主体的学び」につなげる評価と学習方法—カナダで実践される ICE モデル』, 東信堂 (2013)	